

大阪・サンクト・ペテルブルグ姉妹都市提携 30 周年記念、
大阪・ハンブルク友好都市提携 20 周年記念大阪市会代表团
出張報告書

- 出張目的 サンクト・ペテルブルグ市においては、大阪・サンクト・ペテルブルグ姉妹都市提携 30 周年を記念して、記念レセプションなどさまざまな記念行事に参加し、サンクト・ペテルブルグ市議会を表敬訪問するほか、先進事例を視察する。
ハンブルク市においては、大阪・ハンブルク友好都市提携 20 周年を記念して、記念レセプションなどさまざまな記念行事に参加し、ハンブルク市議会を表敬訪問するほか、先進事例を視察する。なお、大阪市代表团（团长：北山副市长）とともに両市を訪問する。
- 期 間 平成 21 年 10 月 19 日(月)～28 日(水)の 10 日間
- 出張先 ロシア連邦サンクト・ペテルブルグ市、ドイツ連邦共和国ハンブルク市
- 代表团 团长 大阪市会議長 舟 戸 良 裕
大阪市会運営理事（自由民主党・市民クラブ） 井 上 英 孝
大阪市会運営理事（公明党） 高 山 仁
自由民主党・市民クラブ幹事長 高 野 伸 生
民主党・市民連合幹事長 神 原 昭 二
日本共産党幹事長 渡 司 考 一



サンクト・ペテルブルグ市役所前庭にて

訪 問 先 等 一 覧

サンクト・ペテルブルグ

- 10月20日（火） 人類学・民族学博物館
ペトロパーヴロフスク要塞
サンクト・ペテルブルグ市表敬訪問
サンクト・ペテルブルグ市主催レセプション
- 10月21日（水） 国立エルミタージュ美術館
在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館
大阪プロモーションセミナー
大阪市、大阪市会主催レセプション
ミハイロフスキー劇場
- 10月22日（木） 国立マリオネット劇場
サンクト・ペテルブルグ市議会表敬訪問
サンクト・ペテルブルグ市議会主催昼食会
サンクト・ペテルブルグ国立大学と大阪市立大学との協定更新式
〃 〃 と大阪大学との協定調印式
「日本の秋」フェスティバル 平原綾香コンサート

フランクフルト

- 10月23日（金） ルフトハンザ社訪問 エアポートプロモーション

ハンブルク

- 10月24日（土） ハンブルク市街
ハーフェンシティ H2O ビル
オッテンゼン・平野地区交流対話シンポジウム
大阪市、大阪市会、大阪・ハンブルク友好都市協会共催レセプション
- 10月25日（日） ミニチュアワンダーランド
ハンブルク美術工芸博物館、ドイツ文化センター
ハンブルク国際海洋博物館
在ハンブルク日本国総領事館
- 10月26日（月） ハンブルク市立中央図書館と大阪市中央図書館との交流協定調印式、本の贈呈式
大阪アレー（大阪通り）除幕式、渡り初め
ハンブルク市表敬訪問
ハンブルク市主催昼食会
ハンブルク市議会表敬訪問
ハンブルク市議会主催レセプション

サンクト・ペテルブルグ市

10月19日(月)

フランクフルト経由で午後 11 時ごろ、サンクト・ペテルブルグ市内にあるプルコヴォ空港に到着しました。サンクト・ペテルブルグ日本センターの朝妻所長とサンクト・ペテルブルグ市職員の方が遅い時間にもかかわらず、あたたかく歓迎してくれました。

10月20日(火)

人類学・民俗学博物館

朝 9 時ごろまで空は暗く、小雨が降る中、人類学・民族学博物館を訪れました。

アレクサンデル・シニツィン部長に案内していただき、日本関係の展示コーナーを視察し、次のような説明を受けました。

この博物館はピョートル大帝により創立され、大体ペテルブルグの建都と同時にできた。入場者数は、年間約 100 万人である。創立のときから博物館のコレクションには日本と関係のあるものがある。ペテルブルグに来た最初の日本人は、大阪の立川伝兵衛という人で、17 世紀終わりごろ彼は船の事故により漂流して、その当時ロシアの領土になったカムチャッカ半島でロシアの士官たちに救われた。そして、モスクワへ移動させられ、ピョートル大帝に謁見した。ペテルブルグの建設が始まったときから伝兵衛はペテルブルグに創立された日本語の学校の先生になった。世界で一番歴史の長い日本語学校で、大体、まちの歴史と同じ 300 年の歴史がある。

ピョートル大帝は、日本の文化にとっても興味があり、彼の希望により日本のほうへの探検も始まった。1725 年、初めてスパンデル船長が日本に寄航し、その後はロシアから何回も行き来があり、いろいろなコレクションがあった。しかし残念ながら 1747 年の火事で、日本との関係が始まった当時の展示品は燃えてしまった。当時から残っている一部のものだけは展示している。ロシアでも有名な大黒屋光太夫が、18 世紀終わりごろにエカテリーナ 2 世にプレゼントしたのもの



もある。日本関係のコレクションは全部で 1 万点以上あり、江戸時代のものもたくさんある。特に、ニコライ 2 世が皇太子だったときに世界一周旅行で日本へ行き、大津事件が起きたが、そのお詫びとして彼は非常に価値のある日本の鎧や槍、刀、薙刀などを明治政府からもらっており、それらはこの博物館のコレクションになっている。日本コーナーには、芸術品だけでなく、日常生活道具なども展示しており、雛人形や昔の日本の時計、伝統的な農家の様子も展示している。

その後、狭い螺旋階段で最上階の天文台に上がりました。ここでの説明は、「この地球儀は、17 世紀終わりごろに北ドイツでつくられた、当時では一番大きいものである。重量は 3.5 トン、直径は 311 センチメートル、球体は銅板でできている。地球儀の中から星座や星を観測することができる。おもしろい特徴として、この地球儀は回転する。そのために内部に、特別な機械が入っている。北ドイツから 3 年もかかって運ばれてきた。



もとの地図はドイツ語とラテン語の表記だったが、火事で損傷した後、復元したときにすべてロシア語表記にした。この地球儀では日本が一番上になっており、残念ながら見えない。日本が一番上になっているのは、当然のことでしょうか。」とユーモアを交えてくれました。

ペテロパーヴロフスク要塞

北方戦争（1701—21年）を戦っていたロシアは、ピョートル大帝自身が、ネヴァ川の河口の兔島を要塞建設地と定め、1703年5月16日に要塞の建設に着手しました。ここから未来のロシア帝国の首都建設が始まっており、ペテロパーヴロフスク要塞は、サンクト・ペテルブルグの発展の礎とされています。要塞でありながら一度として軍事的用途に使われたことがなく、建設されてまもなく政治犯の牢獄として使われていたそうです。



要塞内の最重要建造物であるペテロパーヴロフスク大聖堂を見学した後、「正午の礼砲」に立ち会いました。これは、ナルイシキン稜堡（りょうほ）に設置してある大砲により、市民に正午を告げるもので、現在でも毎日行われています。至近距離での地面から突き上げるような大音量には飛び上がるほど驚きました。なお、この正午の礼砲は、昔は人類学・民族学博物館において行われていたそうです。

サンクト・ペテルブルグ市表敬訪問

スモールヌイ（サンクト・ペテルブルグ市役所）を訪れました。正面玄関で厳しいセキュリティチェックを受けた後、3階の会議室に案内されました。スモールヌイとはタールを意味し、この地区にはかつて造船用のタール工場があったことからこう呼ばれています。

【アレクサンデル・ワフミストロフ副知事のあいさつ】

マトビエンコ知事に代わり、サンクト・ペテルブルグ市を代表してごあいさつを申し上げます。サンクト・ペテルブルグ市と大阪市との間の距離は非常に長いにもかかわらず、お互いの関係がますます強くなっていることを嬉しく思う。30年前に姉妹都市提携が締結されたことにより、経済、技術、芸術、文化などそれぞれの分野で協力が進んだことは非常に喜んでいる。近年、ロシアと日本との結びつきが強くなってきており、日産とトヨタの工場が進出しているが、必ずしも安定して発展できる環境ではないのに進出してくれたのは、我々の姉妹都市関係がよい影響をもたらしたと考えている。日本の先端技術産業がサンクト・ペテルブルグに進出したことは、サンクト・ペテルブルグが



先端技術の中心地であることによって可能になったと思う。そういう意味では大阪市立大学とサンクト・ペテルブルグ大学との協定がこれからも続くことを願っており、IT やイノベーション技術、ナノテクノロジーなど特に日本が進んでいるハイテク分野が協力の基礎になると思っている。

サンクト・ペテルブルグ市民は、以前から日本の文化と歴史に対して非常に強い興味を持っている。その証拠として、今年で6回目になる「日本の秋」というフェスティバルが毎年行われており、今年は平原綾香のコンサートも行われる。また、最近、日本のレストラン、日本料理店が非常にふえてきている。大阪の味とは違うと思うが、この事実は市民の日本に対する関心の高さをあらわしている。

30周年を迎えたことは非常にめでたく、サンクト・ペテルブルグと大阪との協力関係は絶対に成功すると確信している。大阪の市民の皆さんにもよろしくお伝えください。

【北山副市長のあいさつ】

本日、アレクサンデル・ワフミストロフ副知事には非常にお忙しいところ、私たち大阪市の代表団をあたたかく迎えていただきありがとうございます。当初は平松市長が、ぜひこの美しいまちを訪れたいと心から楽しみにしていたが、どうしても急な公務のためにそれがかなわず、私が代わりに参った。平松市長から皆様方によろしくお伝えくださいというメッセージを預かってきた。30年前の8月16日にここサンクト・ペテルブルグ市で両市の姉妹都市提携が調印され、それから30年にわたって文化、経済、学術など幅広い交流が行われてきた。これも、マトビエンコ知事、ワフミストロフ副知事、サンクト・ペテルブルグ市の市民の皆さんの大きなお力添えのおかげであると思っている。昨日の夜にこのまちに入り、今朝からずっとまちを拝見して、水を生かした非常に美しいまちであると感じている。要塞の礼砲にはみんなびっくりした。大阪もこれから水を生かしたまちづくりをどんどん進めたいと思っているので、サンクト・ペテルブルグの美しい景観を生かしたまちづくりをぜひ参考にしていきたい。また、明後日に行われる大阪大学とサンクト・ペテルブルグ大学との協定調印式、これまでの大阪市立大学に加えて大阪大学が加わることによって、ますます学術分野での両市を中心とした日本とロシアの交流が促進されるものと考えている。30周年を契機として、これからは学術、文化面のみならず、経済、観光面でもより一層交流を促進していく必要があると考えている。

最近地球温暖化対策の関係もあり、大阪湾の周辺や関西地方に太陽電池や自動車のリチウムイオン電池といった新エネルギー関連産業がたくさん立地してきている。大阪は関西経済圏の中心として古くから文化が集積しており、また新しい産業も発展している地域であるので、大阪とサンクト・ペテルブルグが今後ますます太い絆で結ばれていくことが非常に重要であると考えている。明日、ノボテルホテルで今申し上げたような大阪を紹介するセミナーを開催するので、もしお時間があればお越しください。



【舟戸議長のあいさつ】

ワフミストロフ副知事をはじめ、皆様方には私ども大阪市会代表団をあたたかくお迎えいただき心から感謝申し上げます。こうして皆さんにお会いできたことを嬉しく思っている。また昼には、ロンスキー対外

関係委員会副委員長にいろいろとサンクト・ペテルブルグの話をお聞かせいただきお礼申し上げます。

サンクト・ペテルブルグ市と大阪市は、1979年に姉妹都市提携を始めて以来、経済、文化、学術などさまざまな分野で今日まで交流を続けてきたわけで、30年という月日の長さに私も驚いている。25周年のときには、マトビエンコ知事に大阪市へお越しいただき、記念事業にも出席していただいたことについて改めて感謝申し上げます。

今回の30周年記念事業への出席をはじめ、さまざまな方々との交流を契機として、両市の友好関係が一層進展することを心からお祈り申し上げます。また次の機会には、ぜひ皆様方そろって大阪に来ていただければ、私どもは大歓迎させていただきます。最後に、皆様方のご健勝と両市の発展を祈念申し上げます。

【ワフミストロフ副知事】

ありがたいお言葉をいただき感謝する。マトビエンコ知事にお伝える。

ご承知のように、マトビエンコ知事はとても日本と大阪が気に入っている。2004年の25周年のときに大阪に行かれたが、そのときも大阪が非常に好きになっていた。

我々の協力関係がこれからも続くことを確信している。特に大阪・関西で新エネルギーや環境問題に関する技術が発展していると言われたが、ロシア政府も、経済危機を経て、これからは先端技術や省エネルギー・新エネルギー技術など産業を多様化することが必要であると理解している。また、トヨタと日産のおかげで、かなり短期間でまったく新しい産業分野、自動車産業をつくることができた。さらに、これから30年で製薬分野を構築することを目標としている。実際に、サンクト・ペテルブルグにおいては製薬分野に関する基礎はつくられており、単なる製薬だけでなく新しい薬の開発と強化、海外の製薬会社の進出を課題としている。また本市の情報を申し上げますと、水道公社によりきれいな環境づくりが実施されており、水の博物館は大変な人気でたくさんの生徒たちが見学に行っている。

皆さんには、公式行事が予定されているが、時間をつくっていただき、まちを歩いたり、美術館を見たりして、サンクト・ペテルブルグのまちの魅力を味わっていただきたい。一度サンクト・ペテルブルグに来られると、何回も何回も来たくくなりますから。

【北山副市長】

先ほどの環境の話であるが、日本でも環境政策が重要視され、だんだんとそのウエイトが上がってきている。この政策は、多分50年くらい先を見越した大きな産業構造とか社会構造とか、ライフスタイルを変えていくような変革につながっていくであろうと考えている。大阪市の中でも関係部署が連携して縦割りを越えて再度検討するような環境部門のチームを5月に再構築したところである。太陽光パネルではシャープとかが頑張っているが、私どもは民間の太陽光パネル設置を促進するために助成金を提供したりしている。学校の屋上とか、水道局の水源地の上とかに太陽光パネルを設置するなど、これからいろんなことを実施していきたい。また、製薬の関係では、大阪は近世の時代から物流の中心地であり、大阪の一番中心地にある道修町に製薬会社が集中している。武田薬品などがあり、ぜひそういう企業と連携ができればと思っている。水道については、水道局が随分頑張ってくれていて、ISO22000という国際規格を公共水道として初めて取得した。ペットボトルで水道水を「ほんまや」という商品名で販売しており、非常に水準の高い水道事業を行っている。

○質問： サンクト・ペテルブルグの工業では、軍需産業が大きいと聞いているが本当か。

○答え： それは半分だけ合っている。純軍隊向けの生産は、今はない。サンクト・ペテルブルグでは造

船産業が発展しており、その一部の受注が軍隊とかかわっている程度である。受注は国内・国外が半々の割合で、インド、ギリシャ、中国などから受注している。昔に比べて軍隊向けが多いとはいえない。そのほか、サンクト・ペテルブルグにおいて発展している産業は、情報通信技術やエネルギー産業、発電所向け設備産業である。昔からの伝統的産業である造船、エネルギー開発、通信施設産業以外に新しい分野が生まれている。先ほど言った自動車であり、自動車産業の生産高は通信施設産業と同程度になっている。このように産業構造が多様化されたので、今回の経済危機でも大きな影響を受けなかったといえる。失業率も高くはない。

【北山副市長】

先ほど日本の企業が、自動車産業が立地していると言われたが、いろんな産業が進出して経済交流が進む中で、今までの行政はどちらかというと経済交流の役割を十分に果たしてこなかったかもしれない。これからはそういう機会をどんどんつくって、それがロシアと日本の経済交流につながり、両市の発展につなげていければと思う。

また、日本の人たちはエルミタージュ美術館などのテレビ放送があればよく見る。文化、芸術に非常に関心がある。文化、芸術の面でもっと交流が進み、人の動きが活発になることによって、遠い将来かもしれないが、関西空港からサンクト・ペテルブルグへの直行便が飛ぶ日がきてほしいと思っている。

【ワフミストロフ副知事】

直行便のアイデアは非常にいいと思う。ありがとうございます。ちょうど10月30日にサンクト・ペテルブルグ市の政府が空港整備に関する契約を締結することを予定している。その契約は3カ年で空港を拡張する内容で、増加する便数の多くを東南アジアの国々が受け入れてくれることをめざしている。5年経てば、サンクト・ペテルブルグ空港と毎日は無理かもしれないが、毎週、東南アジアや東京・大阪との直行便が就航することを期待している。現在、サンクト・ペテルブルグ空港は市立空港で、ロシア航空とトランスアエロ航空が主として使用している。



市役所内のホールにて

○質問： 日本の新幹線を、例えばサンクト・ペテルブルグとモスクワ間に導入する考えはないか。

○答え： 実際に高速列車がある。来年には定期的にモスクワとサンクト・ペテルブルグ間を3時間45分で結ぶようになる。

サンクト・ペテルブルグ市主催レセプション

【プロホレンコ対外関係委員会委員長のあいさつ】

今年は姉妹都市提携30周年の記念の年である。両市は今まで、姉妹都市として自然に歳月を重ねてきたと思う。我々の協力関係はこの30年の間、両国の関係に大きく寄与したと思っている。もちろん長年にわたっていろいろなことがあったが、問題にぶつかっても我々の協力によってすべての問題を解決することができた。



大阪日露友好協会の主催でいろいろな行事・イベントが行われており、そのおかげで Санкт・ペテルブルグ市も参加することができた。例を挙げると、大阪の子どものバレエ団と Санкт・ペテルブルグの合唱団のコンサートが大阪で行われたことである。

私たちは今回、大阪の代表団の皆さんの日程をできるだけ忙しくするように努力したので、十分心して日程をこなしてください。

また、日本とロシアは可能性の国であると、そして Санкт・ペテルブルグと大阪は両市ともそれぞれの国でパイオニアになれると言われている。両市の協力によって両国の協力関係を促進することができる。

ロシアで一番可能性のある Санкт・ペテルブルグによろこそ。

【舟戸議長のあいさつ】

このように盛大なレセプションを開催していただき、プロホレンコ対外関係委員会委員長に心から感謝とお礼を申し上げます。私たちは大阪市会 88 名を代表してこの 30 周年記念行事に参加させていただきました。これまでの 30 年間にわたる姉妹都市交流の輝かしい歴史と成果は、ここにお集まりの皆様をはじめ両市民の熱意とたゆまぬ努力の賜物であると思っている。改めて深く敬意と感謝の意を表する次第である。



私は 1991 年に大阪市の代表として、この Санкт・ペテルブルグを訪問した。そのときは、大きな広場に何万人もの人が集まっており、舞台の上で、市の名称が レニングラード から Санкт・ペテルブルグ に変わりましたという世界中の方からの報告を聞きました。十数年ぶりに来て、車がこんなに多くなったのを見て驚いた。

私たちは 30 周年を機に両市の交流がますます親密になり、そして皆様とともにロシアと日本の友好協力の発展に大きく寄与していきたいと思っている。また、在大阪ロシア連邦のプロホロフ総領事に、大阪市も、私も個人的に大変お世話になっている。

最後に、本日お集まりの皆様方の今後ますますのご健勝と、これを機に大阪と Санкт・ペテルブルグの交流が今後一層親密に発展することを心から祈念申し上げます。

【北山副市長のあいさつ】

プロホレンコ対外関係委員長、日本国総領事館の川端総領事並びにご臨席の皆様、本当にありがとうございます。このような古い建物を修復したすばらしい空間で、私たちのためにこのような盛大な席を設けていただきありがとうございます。昨夜こちらに入り、一日あちこち見させていただき、本当に美しいまちであると心から感じた。大阪と同じように川とか水路が随分整備されており、それと調和した建物がすごくきれいだと思った。公園や緑地もきれいに管理されている。また、先ほどバスでここまで来たが、特定の建物だけでなく、さまざまな建物がライトアップされている夜景を見て、そういうところを私たちもこれからの大阪のまちづくりに生かしていきたいと思っている。今日は午後から市役所を訪問して、文化、

経済、学術などこれまでの 30 年間にわたる幅広い交流の歴史をお互いに確認するとともに、今後はこの 30 周年を契機に経済分野に、また観光・交流分野にさらに力を入れていく必要性を感じている。

大阪は、関西の中心的中核的な都市であり、関西には日本のさまざまな文化遺産が集積している。また、新しくパネルベイと呼ばれている太陽光発電などの集積や環境産業が生まれている。この関西の中心の都市である大阪とサンクト・ペテルブルグが軸になり、両市の発展とともに日本とロシアの大きな発展につなげていくことができるのではないかと考えている。

明日午後 3 時からノボテルホテルで大阪の魅力を紹介する大阪セミナーを開催するので、もし時間があればぜひお越しいただきたい。

最後に、私どもの訪問の受け入れに大変お世話いただいたマトビエンコ知事をはじめサンクト・ペテルブルグ市の皆様方、川端総領事をはじめ日本国総領事館の皆様方、朝妻所長をはじめ日本センターの皆様方に重ねてお礼申し上げます。

この後、ロシアの歌と生演奏を聴きながら、サンクト・ペテルブルグ市の対外関係委員会の皆さん、また総領事館や各視察先の関係者の方々と楽しい雰囲気でお話しすることができました。

10 月 21 日(水)

国立エルミタージュ美術館

10 時 30 分開館のところを特別に 10 時から入館させていただき、副館長のゲオルギー・ヴィリンバホフ氏にお会いし、「日本とは、昔から交流があり、エルミタージュのいい伝統となっている。今回の機会をかりて、いつもとてもあたたかく歓迎してくれる大阪の市民の皆さんに感謝の意を表する。」旨、ごあいさつをいただきました。

エルミタージュ美術館は、パリのルーブル美術館、ニューヨークのメトロポリタン美術館と並び世界三大美術館の一つとされ、冬宮（小エルミタージュ）、旧エルミタージュ、新エルミタージュなど 5 つの建物から構成されています。美術館としての創立年は 1764 年だとされており、現在の所蔵数は約 300 万点に及びます。博物館の目玉の一つである「孔雀の時計」やレオナルド・ダ・ヴィンチ、レンブラントの絵画などたくさんの作品を鑑賞しました。数々の芸術品だけでなく、建物内部の豪華なつくりにも圧倒されました。



パビリオン・ホールの時計《孔雀》



ヴィリンバホフ副館長（右から 3 人目）と

在サンクト・ペテルブルグ日本国総領事館

エルミタージュ美術館から徒歩で総領事館を訪ねました。

まず、川端総領事から「今日は大阪の代表団の訪問にちなんで一席設けさせていただいた。今回は、ロシア側から働き蜂というか、実際に働いてくださった方とこれからフォローアップで働いてくださる方に依頼状を書くことにした。」旨のあいさつがありました。

次に、舟戸議長が、「川端総領事にはご多忙中にもかかわらず、私たちをご招待いただきありがとうございます。また、笹目首席領事、林領事、金津副領事の皆さんとお会いできたことは嬉しく、また、30周年を機にこうして皆さんと一緒に食事できることを光栄に思っている。」旨のあいさつをし、各議員を紹介しました。

続いて、北山副市長があいさつし、随員スタッフを紹介した後、川端総領事がほかの主な出席者を紹介してくれました。

日本側の招待者は、大阪市立大学の金児学長、大阪大学の弘津グローニンゲン教育センター長、大阪商工会議所の松本課長、シャープ・ロシアの原社長。

ロシア側の招待者は、サンクト・ペテルブルグ市のロンスキー対外関係委員会副委員長、ジョアン氏（ロンスキー氏の部下で局次長）、ラディオオン氏（ペテルブルグ商工会議所国際交流部長）、サンクト・ペテルブルグ国立大学のサフキン秘書室長、露日友好協会のツベコーワ事務局長。

総領事は、議会関係者も招待しておられたが、「審議中に行くことができない。明日の訪問を心からお待ちする。」とのことでした。

最後に、川端総領事から、サンクト・ペテルブルグにおいて5月に日本人会が設立されたとの紹介があり、その副会長かつ日本センター所長である朝妻氏が紹介されました。

このあと、ロンスキー副委員長の次のようなあいさつで乾杯した後、出席者の皆さんと和やかに懇談しました。

今回の訪問に際して実施される記念事業は、すべてうまくいっていると思う。まだこれから本日のセミナーとか、明日の平原綾香さんのコンサートを含めて行事がたくさんあるが、すべてうまくいくと確信している。それから忘れてはならないのは、明日、サンクト・ペテルブルグ国立大学と大阪国立大学並びに市立大学との間の交流協定の調印及び更新が予定されていることである。姉妹都市交流のおかげで両市にはたくさんのいい効果をもたらされていると思っている。これを機に今後さらに両市の関係が発展することを祈念して、大阪とサンクト・ペテルブルグに乾杯。

大阪プロモーションセミナー

舟戸議長が、北山副市長とともにセミナーに出席し、「本日は、大阪市におけるビジネスチャンスや都市の魅力の情報発信を行う大阪プロモーションセミナーを開催したところ、このように多くの皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。大阪市は西日本の中心都市として、全国各地から人・もの・情報が集中し、関西国際空港や大阪空港といった空の玄関口にも隣接しており、ビジネスの上で大変充実し



川端総領事（左から3人目）



た環境が整っている。また、海外からの企業進出を支援するさまざまなサービスも充実しており、皆様方の大阪進出をしっかりサポートさせていただく体制も用意している。本日のセミナーにおいて大阪の魅力を十分にご理解いただければ幸いです。」旨のあいさつをしました。

セミナーには予想以上の参加があり、企業や観光業関係者など約 80 名で、ノボテルホテルの会場が狭く感じられるほどでした。また、次回セミナー開催時には、日本の医薬品・医療関係者の話を聞きたいという声がありました。

地下鉄の視察

議長がセミナーに出席している間に、他の議員全員で地下鉄の視察に行きました。

モスクワ駅（ロシアでは行き先が駅名になる）のすぐそばの駅から一駅でしたが、実際に乗車しました。料金は一律 20 ルーブル（約 65 円）、切符売り場（対人）で専用のコインを買って改札でコインを投入して入ります。ピタパのような IC カードも普及していました。先のほうが見えないほど長いエスカレーターに乗りプラットホーム階に降りました。エスカレーターは日本では見られない速度で動いていました。モスクワ駅の線路部分の深さは約 70 メートルの大深度で、100 メートルを超える駅もあるようです。ちなみにエスカレーターは右側に立つ大阪方式でした。下りは走って降りる人もいましたが、上りのときにはさすがにいませんでした。大深度になっているのは、地質的な問題とされているが、改札のところで写真撮影は禁止と言われたことから別の理由があるのではないだろうか。



切符（コイン）売り場

ホームは、ホーム柵のところと、壁にエレベーターのようなドアがあるところがありました。「壁ドア」とでもいうか、日本では見たことがない形態でした（ニュートラムはガラス張りなので違う）。また、次の駅で降りる際には改札がなかった——乗車料が先払いの一律料金だから可能なのでしょう。降りた駅の上には、ちょうど 2 階の回廊が非常に長い百貨店「ガスチーヌイ・ドゥボール」がありました。



大阪市・大阪市会主催レセプション

30 周年記念レセプションをノボテルホテルの 1 階レストランで開催し、プロモーションセミナーの参加者も含め、約 100 名の方々に出席いただきました。

【舟戸議長のあいさつ】

ようこそ皆さん。大勢ご参加賜り、心から大歓迎申し上げます。

昨日は市役所へ行き、ワフミストロフ副知事に表敬訪問させていただき、また、エルミターージュ美術館をはじめとする文化集客施設を視察しました。今回の訪問は、私どもにとって非常に有意義であると思っています。また、明日は市議会への表敬訪問や 30 周年を記念したコンサートなどの予定があるので、これ

らの行事において大阪と Санкт・ペテルブルグの交流をより一層深めていきたいと考えている。

先日、大阪・京都のミシュランの食事の本が発表された。大阪は一つ星だったが、たくさんの店が載った。本当は星の数が少ないと思っているが、こうした大阪の食文化も含めて、ぜひ皆様も大阪市へ遊びにきていただきたい。最後に、皆様方のご健勝ご多幸と両市の友好関係のますますの発展を祈念する。

【北山副市長のあいさつ】

大阪市のそして大阪市主催の姉妹都市提携 30 周年を記念するレセプションにようこそお出でくださいました。また、大阪プロモーションセミナーにも会場からあふれるくらいたくさんの方々にお集まりいただき、本当にありがとうございました。

おかげをもって、 Санкт・ペテルブルグでの予定行事を滞りなく進めることができた。今回の受け入れに際して、格別なるお世話をいただいた Санкт・ペテルブルグ市のプロホレンコ委員長をはじめとする対外関係委員会の皆様、日本国総領事館の川端総領事、日本センターの朝妻所長ほか多数の皆様がこの間本当にいろいろお世話になり、心からお礼申し上げます。私たちは機会を得て、この美しいまちを訪問することができ、たくさんの人と触れ合うことができた。その中で、いろんな方々がロシアと日本のために、そして Санкт・ペテルブルグと大阪の友好発展のためにそれぞれの立場でご尽力されていることを知ることができた。国や都市の交流も経済の交流も結局はこういう人のネットワークが非常に重要であると痛感した。この 30 周年を契機に、今後、経済、文化、学術、観光など多岐にわたる友好関係がさらに発展するよう心から念願する。次の機会には、多くの方々に大阪をぜひ訪れていただき、私たちが今度大阪で歓待できるこのような場をぜひ持ちたいと思っている。本日はささやかな席であるが、ゆっくりとくつろいでいただければ幸いである。本日はありがとうございました。



ロンスキー副委員長（右端）

この後、市議員並びに市側理事者と次の方々の紹介がありました。大阪大学の弘津特任教授、大阪市立大学の金児学長、シャープ・ロシアの原社長、ジェトロ・モスクワの浅元調査担当、大阪商工会議所の松本課長。

続いて、 Санкт・ペテルブルグ市のロンスキー対外関係委員会副委員長からあいさつがありました。

【ロンスキー対外関係委員会副委員長のあいさつ】

30 周年で来られた大阪代表団の訪問 2 日目になった。大阪プロモーションセミナーが終わったばかりであるが、このセミナーの準備をされた大阪市の皆さん、総領事館の皆さん、 Санкт・ペテルブルグ市政府に感謝の意を述べたいと思う。特に、シャープと大阪商工会議所のプレゼンテーションで提供された DCP プログラム（大阪の企業と海外企業のマッチングプラン）は興味深い。このセミナーへの参加者が多かったこ



とは、セミナーに対する関心の高さをあらわしている。

サンクト・ペテルブルグ市における大阪との 30 周年をお祝いするとともに、皆さんに成功が訪れることをお祈りする。

川端総領事による乾杯の後、議長をはじめ各議員は、サンクト・ペテルブルグ市の方々や出席者の皆さんと語り合い、交流を深めました。

このとき、舟戸議長は、ロンスキー委員長やエルミタージュ美術館副館長のゲオルギー・ヴィリンバホフ氏らと懇談した中で、議長から「大阪市は近代美術館の建設を計画しており、美術館開館の暁にはエルミタージュ美術館の名画をお貸しいただきたい。」と依頼したところ、ヴィリンバホフ副館長から非常に快く協力する旨の返答をいただきました。

ミハイロフスキー（ムソグルスキー・オペラ・バレエ）劇場



ミハイロフスキー劇場にバレエ公演の第 1 幕「グラン・プリ」の途中から入場し、第 2 幕まで鑑賞しました。劇場の作りは、舞台に向かって客席が馬蹄型になっていて、伝統的な様式でした。議長は、劇場ディレクターのウラディミール・ケフマン氏と会い言葉を交わしました。日本ではほとんどバレエを見る機会がないので貴重なひとときであり、繊細な動きと躍動的な跳躍が印象的でした。

10月22日(木)

国立マリオンネット劇場

1918年にエヴゲーニー・デンメニが創立した人形劇場を訪れ、ナターリア・ルネーワ監督とスタッフの方からお話を伺いました。

デンメニ氏は、貴族であり職業軍人であったが、才能があった。ある日、彼はメインストリートを散歩しながら骨董品の店に入って 18 世紀のフランス製の人形が入った箱を見つけ、喜んでその箱を買った。そして彼は演劇サークルのメンバーと熱心に新しい人形芝居の活動を始めた。当時ロシアには人形芝居がなかったので、人形づくりから何からすべて一から始めなければならなかった。

サーカスと人形劇は、ロシアの人々の生活の中で最も親しまれている娯楽の一つである。この劇場はロシアで最も長い歴史を持っており、建物自体もサンクト・ペテルブルグで一番古く、1854年に建てられた。人形のコレクションは 18 世紀から収集しており、現在 1 千以上になる。創立当時から使われたものもある。

この劇場のスタッフは 78 人、このうち半数は創造的で専門性を持つ芸人、舞台画家、監督などである。伴奏も必要で、画家の役割もとても重要である。技術者が多



いのが特徴で、この劇場は上演するだけでなく、新しい作品をつくることと人形コレクションを展示する機能を果たしている。この劇場の最も重要なミッションは、人形劇を通じて子どもたちの人間関係を発展させること、人と人との関係をつくることである。今日は代表団のために、本当に短い人形劇を上演する。イタリアの「3つのオレンジの恋」という話である。

(人形劇を観客席で鑑賞した後、お茶とピロシキを用意してくれていました)

ロシアには、演劇関係に対して最も優れた芝居が受賞する「黄金の仮面」という賞がある。2008年の芝居がロシアで一番いい人形劇の芝居として認められた。これは本当に私たちの誇りである。国際舞台における活動もしている。外国のいろんなフェスティバルにも参加している。また、人形コレクションを外国で展示することもある。私たちの夢は、大規模な特別展を開催し、すべての人形を展示したいと思っている。



ペトロブルグの建都300年記念の2003年のことである。当時、ペテルブルグでもいろんなイベントがあったが、同時にドイツの首都ベルリンでは、この劇場の歴史をテーマにした特別展が開催された。特別展の主催者のうち一番偉い人は、当時のプーチン大統領とドイツのシュレーダー首相であった。

○質問： 国や行政からの補助金はあるのか。

○答え： この劇場は国立であり、市の予算からも補助がある。劇場の予算の40%は劇場の収入で賄っている。慈善活動もとても重要である。年間3,000人以上の子どもたちを無料で招待している。例えば、両親のいない子ども、身体の不自由な子どもである。身体の不自由な子どもたちを診る専門病院と50年もの協力関係がある。

○質問： 料金はいくらか。

○答え： 180~200ルーブル(約650円)と安く、もちろん儲けるための活動ではない。

【ナターリア・ルネーフ監督】

皆さんに提案するが、大阪に適当な舞台があればこの劇場の公演をしたい。ロシア側からは市政府がサポートすることになる。スタッフは公演のための移動にも慣れているので喜んで日本に行くつもりである。

【北山副市長】

サンクト・ペテルブルグ市と大阪市は共通点がたくさんある。お互いに古くからの港町であり、人形劇も大阪には「国立文楽劇場」があるので、そういう交流についても考えていきたいと思う。今日はすばらしい人形と劇を見せていただきありがとうございます。

サンクト・ペテルブルグ市議会表敬訪問

皇帝ニコライ1世の銅像が中央に建てられたイサク広場に面したマリヤ宮殿が市議会の建物になっています。マリヤ宮殿は、1844年にニコライ1世の長女で最愛の娘マリヤ・ニコラエヴナの結婚のお祝いとして建てられたもので、サンクト・ペテルブルグでも有数の美しい建築遺産と言われています。1991年から市議会として使



われており、建物内部は白亜の大理石で装飾されていました。

玄関ホールでセルゲイ・テレホフスキー市議会対外関係課長が出迎えてくれました。きれいな階段を上り2階の一室に案内されました。

【ワタニヤール・ヤグジャ副議長（国際関係全権代表）】

心より大阪市議会並びに大阪市の代表団を歓迎する。また、心から両市の姉妹都市提携30周年のお祝いを申し上げる。本日はあいにくチュルバノフ議長が出席できず誠に申しわけない。急遽モスクワ出張しなければならなくなり、議長から出席できないお詫びとともに、舟戸議長はじめ皆様を歓迎し、30周年を喜んでいと伝えるように言われている。

両市はこの30周年を契機として、今後ますます経済及び文化面で関係を強化していきたいと考えている。昨年日本とサンクト・ペテルブルグ市のビジネスは、総額で7億7,100万ドルであるが、ペテルブルクから日本への輸出はわずか8,700万ドルにすぎない。

昨日の大阪市のプレゼンテーションは大変内容の濃い有意義なものであったとの報告を受けており、こういう形で両市のビジネス関係が一層拡大し充実していくことを心より願っている。

【舟戸議長】

ヤグジャ副議長をはじめ皆様方にはご多忙中にもかかわらず、私どもをあたたくお迎えいただき、厚くお礼申し上げます。こうして皆様方にお会いできたことを大変嬉しく存ずる。サンクト・ペテルブルグ市と大阪市は、1979年に姉妹都市提携を行って以来、経済、文化、学術などあらゆる分野で交流を深めており、本年めでたく30周年という記念すべき年を迎えることができた。

このたびの訪問においては、姉妹都市提携30周年を記念したさまざまな行事への出席をはじめ、多くの方々との交流を通じて両市の友好関係のさらなる発展に努めていきたいと考えている。また、次の機会には皆様方にぜひ大阪にお越しいただき、大阪の魅力を存分に味わっていただきたいと思っている。本日は誠にありがとうございます。

【ヤグジャ副議長】

大阪市への招待を感謝します。これまでも何人かが大阪を訪問する機会をいただいた。お互いにそうした関心を持ち続けることが重要であると考えている。昨年4月にマトビエンコ知事のミッションが訪日した折に、日本の芸妓の学校を視察させていただく機会があり、大変興味深いものであったと聞いている。2008年にはペテルブルグの水族館の充実のために専門家に来ていただいたこともある。サンクト・ペテルブルグ大学の東洋学部にも多くの書籍を寄贈いただいた経緯もある。

また、平原綾香のコンサートは、ペテルブルグ市民にとって大変楽しい機会をいただいた。こうした文化面での交流が、両市の市民同士の関係を一層近づけることにつながる。

【北山副市長】

両市の今後の協力関係の発展は重要である。経済・文化関係はもちろんのこと、学術交流は重要であり、



本日 3 時からサンクト・ペテルブルグ大学において、大阪大学とサンクト・ペテルブルグ大学の協定調印式並びに大阪市立大学との協定更新式が予定されている。こうした学術交流を推進していくことは極めて有意義なことであると考えている。協力関係を形だけで終わらせることなく、さらに関係が進展するよう引き続きご協力いただきたい。

この後、ヤグジャ副議長から、市議会について説明がありました。

サンクト・ペテルブルグ市政府が対外的な関係を締結するには、必ず議会の承認（批准）を必要とする。その意味で批准した以上はその後も無関心ではおれず、協力関係の発展を願っている。ペテルブルグ市議会は 50 人の議員で構成されており、決して多くはないが、日頃から大阪市との具体的な関係強化の方策を考えていることを理解いただきたい。議会の役割等については、次のとおりである。

- ・市議会の権限は、市の基本方針の決定、条例の制定・改廃、予算の承認、ロシア連邦議会への法案提出などで、市の憲章で規定されている。
- ・2010 年予算の歳入は、3,090 億ルーブル（約 110 億ドル）である。
- ・サンクト・ペテルブルグ市の知事は、2004 年のロシア連邦政府の法律改正により、ロシア連邦大統領の推薦を経て市議会が承認する。副知事は議会の選任または承認をもって決定される。
- ・連邦裁判所組織の中の地方裁判所の裁判官の任命及び市民裁判員の任免を行う。
- ・人権保護市民オンブズマンを任命する。
- ・市議会議員選挙は、従来は 50 からなる選挙区で各 1 名の候補者に投票する小選挙区制であったが、2007 年 3 月の選挙から比例代表制が導入された。現在、議員の任期は 5 年である。
- ・議会（定数 50 人）の党派別所属議員数は次のとおりである。

政 党 名	党 首	人数
統一ロシア党	プーチン氏	23
公正ロシア党	ミローノフ氏	13
共 産 党	シュガーノフ氏	9
自 民 党	ジリノフスキー氏	5

- ・選挙後最初の議会で選任される議長は、議会を代表し、議事日程を管理するとともに、条例・規則の認証・署名を行う。また、議事運営の中立性の確保と質疑時間を管理する責任を負っている。議長は知事と同様、ロシア連邦議会の議員を兼ねている。
- ・副議長は市議会議員の中から 2 名が選出され、1 名は経済担当、1 名は対外担当である。議長が市議会に出席できないときは、いずれかの副議長が議長の職務を代行する。
- ・議会は毎週水曜日の午後開催される。
- ・議員は、専任として議会活動に従事し、他の収入を得る活動、議員活動の障害となるような副業は原則として認められていない。ただし、教職、研究、文化活動などについては、有給であっても認められている。



ヤグジャ副議長（中央）を囲んで



議場

記念撮影の後、議場、委員会室を視察しました。議場は、人工大理石が張りめぐらされて大変明るい雰囲気でした。議場がある場所は、宮殿のときにはビンターガーデン（サンルーム）だったそうです。

サンクト・ペテルブルグ市議会主催昼食会

レストラン「ルスキー・キッチ」にて、表敬訪問のときにお会いしたヤグジャ副議長とテレホフスキー市議会対外関係課長、そして、セルゲイ・テストフ議員が歓迎してくれました。川端総領事、朝妻日本センター所長にも同席いただき楽しく食事をとりながら、歴史的まちなみが世界遺産に登録されているサンクト・ペテルブルグにおいて景観論争が起きている超高層ビル「オフトア・センター」（高さ 396メートル）の建設計画の話などを聞くことができました。



サンクト・ペテルブルグ国立大学

大阪市立大学とサンクト・ペテルブルグ国立大学は、1981年に大阪市立大学学長が当時のレニングラード国立大学を訪問し、同大学と学術交流に関する基本的合意をした。その後1985年に両大学間で学術交流に関する協定が調印された。それ以降、研究者交流を行っている。

今回、姉妹都市提携30周年を記念して、新たに大阪大学とサンクト・ペテルブルグ国立大学との間で、学術交流に関する協定が調印されることになり、その場に立ち会いました。大阪市立大学とサンクト・ペテルブルグ国立大学の協定更新も同時に行われました。また、サンクト・ペテルブルグ市側からは、アンドレイ・マクシモフ科学高等教育委員会委員長とヤグジャ副議長が同席されました。

【サンクト・ペテルブルグ国立大学 コンスタンチン・フドレーイ副学長のあいさつ】

日出ずる国から来られた日本の代表団の皆さん、心から歓迎する。サンクト・ペテルブルグ大学はロシア連邦における一番古い大学で、創立以来285周年を迎えた。大学の運営において一番重視しているのは対外関係の活動である。ある時代はヨーロッパとの関係を主に考え、ドイツが中心であったが、今は違った方面にわたる対外関係の活動を行っている。もちろんその中で日本との関係は非常に重要な位置を占めている。特に、我がまちの姉妹都市になっている大阪市との関係も大事にしている。今日は大阪の2つの大学との協定の調印式を行う。疑いようもなく、将来に向かって一層関係を深めることになる。私たちの

大学間の関係は、これからもっともっと両市のまちの発展にとっていい刺激になると思っている。それは偶然ではないと思う。今ちょうどこの調印式に大阪から高いレベルの代表団も来られている。

私たちの協定は、主に学生間の交流をめざしている。私の考えでは、学生に投資する、お金を使うのが



一番有効で効率の高いものになると思っている。将来を見据えた保険であるとも言える。私たちは、これからも学生の交流のためにお金を使うことが我々の大学間の将来のためになると信じている。20世紀の両国間の関係は複雑な時代もあったし、古きよき時代もあった。21世紀は、両国間の関係が素晴らしいものになるよう期待している。今日の調印により、私たちは第一歩をスタートさせるが、とても大事な一歩になると考えている。

もう一度改めて皆さんを Санкт・ペテルブルグ国立大学の名において歓迎させていただく。

【舟戸議長のあいさつ】

Санкт・ペテルブルグ市と大阪市の姉妹都市提携 30 周年という記念すべき年を迎えた本年、 Санкт・ペテルブルグ大学と大阪大学との学術交流協定調印、並びに大阪市立大学との学術交流協定更新を行うことができることは大変喜ばしいことであり、心よりお祝い申し上げます。

Санкт・ペテルブルグ大学は 18 世紀初頭にピョートル大帝により設立されて以来、現在に至るまで、ロシアにおける教育・文化面で多大なる役割を果たし、有為の人材を数多く輩出されてこられました。このロシアを代表する名門大学と大阪が誇る両大学が密接な結びつきを行い、交換留学や共同学術研究などさまざまな分野における交流を行うことは誠に意義深いことである。次代を担う若い世代が互いの交流を通じて視野を広げ、刺激を受けることは大変重要なことであり、それぞれの大学の発展に資することのみならず、 Санкт・ペテルブルグと大阪の発展に大きく寄与するものである。

このたびの協定の締結及び更新を契機として、 Санкт・ペテルブルグ大学、大阪大学、大阪市立大学のさらなる飛躍をお祈りする。本日はおめでとうございます。

【アンドレイ・マクシモフ科学高等教育委員会委員長】

Санкт・ペテルブルグ市政府を代表して、日本から来られた代表団を歓迎させていただく。ロシア連邦において Санкт・ペテルブルグは、学術面においても、教育面においても重要な地位を占めている。 Санкт・ペテルブルグには大学にあたる教育施設が 48 カ所あり、45 万人以上の学生が通っており、教授、助教授は約 3 万人いる。

私たちは今日、 Санкт・ペテルブルグ大学と大阪の 2 つの大学の協定調印式を自分の目で見るができる。それは両市のためになると確信している。また、ナノテクノロジーの分野においても新しい技術を手がけることができると考えている。IT、バイオテクノロジーなどいろいろな刺激を与えてくれるでしょう。今年、プログラムニストのワールドカップにおいて優勝したのは、 Санкт・ペテルブルグの 2 つの大学のチームで、そのうちの 1 つは Санкт・ペテルブルグ大学である。

まず、大阪市立大学と Санкт・ペテルブルグ国立大学との調印式が行われました。

市立大学の金児学長のあいさつの後、フドレイ副学長から「大阪市立大学との関係は、私の前任者も高

く評価していた。大阪市立大学の関係者の皆さんにこの場をかりて尊敬と感謝の意を表す。今後はこれまで以上の関係を築いていけると信じている。改めて皆さんに深くお礼申し上げます。」旨のあいさつがあり、両者が協定書に調印しました。

続いて、大阪大学との協定のセレモニーが行われました。大阪大学の辻副学長、フドレイ副学長からそれぞれあいさつがあり、両副学長が協定書に調印してセレモニーは終了しました。



フドレイ副学長と金児学長

「日本の秋」フェスティバル 平原綾香コンサート



サンクト・ペテルブルグミュージックホールにおいて開催された 30 周年記念事業の「平原綾香コンサート」に参加しました。激しい雨によって道路が渋滞し、観客の出足が鈍かったため、19 時開演予定が 30 分ほど遅れました。平原綾香さんは全部で 14 曲を熱唱され、その姿と美しい歌声に感動しました。アンコールも観客全員から求められるほど、サンクト・ペテルブルグの皆さんにも非常に喜んでいただけたようでした。

平原綾香さんは、9 月にリリースしたアルバム「my Classics!」の中に、ロシアの著名な作曲家であるリムスキー・コルサコフの「シェエラザード」、プロコフィエフの「ロミオとジュリエット」などを収録しており、これらの曲も披露されました。

コンサート終了後、同ホール内で、総領事館主催のレセプションがありました。

【川端総領事のあいさつ】

サンクト・ペテルブルグ市政府のグバンコフ文化委員長、ルースキー次長、大阪市代表団の皆様、そして賓客の皆様、今日はようこそお越しくございました。本日はサンクト・ペテルブルグ市と大阪市の姉妹都市提携 30 周年、それから「日本の秋」フェスティバルの一環として、日本から平原綾香さんを迎えてコンサートを開催することができた。日本の歌謡界のホープとして世界で活躍されている平原さんが今回初めてロシアで公演されたが、コンサートの様子を見ると皆さん大変満足されたようで、私も嬉しく思っている。また、限られた時間の中で、大変すばらしいバック演奏をしていただいたサンクト・ペテルブルグ市の知事オーケストラの皆さんにも心からお礼申し上げます。

日本の伝統文化はロシアでも大変人気があるが、日本の新しい文化も受け入れられ、人気を博すことができることが今回よく分かった。今日のコンサートが新しいペテルブルグと大阪の、また新しい日露関係の大きな刺激になってくれることを期待している。

今日のコンサートは大盛況——ロシア語で「アンシュラック」というが、アンシュラックを皆さんと一緒に祝いしたいと思う。

【アントン・グバンコフ文化委員会委員長のあいさつ】

実際に私は手が痛くなったほど強く拍手したので、機嫌がよくない。だから拍手は嫌なので、冷静に話

したいと思う。

今日の大変すばらしい公演がサンクト・ペテルブルグ市と大阪市の姉妹都市提携 30 周年記念事業として開催されたことは、非常に嬉しく思っている。我々の交流関係は偶然に始まったのではない。両市には共通点が多い。非常に大きな経済都市であり、港があり、非常にユニークな雰囲気を持った都市である。だからこそサンクト・ペテルブルグは「北のベネチア」とよく言われる。大阪もベネチアとよく言われるでしょう。

ロシアでは、ポップミュージックはソビエト時代から広く知られていて、私たちはみんなベンチャーズなどの曲を聴いていた。このことは、実際にフランスとか英国のミュージックに対する我々の関心が説明できる現象である。しかし、なぜか日本の音楽には懐かしさを感じる。これは説明しがたいが、私は日本人とロシア人の心の中に共通点があるからだと思っている。今日のコンサートは勝利したと思う。今後もこのような素晴らしいコンサートがここで開催されることを期待している。我々の協力・交流関係が強化されることを望んでおり、そのためにはサンクト・ペテルブルグ市としてできる限り協力し、貢献することを約束する。



ここで、平原綾香さんに市長名の感謝状贈呈が行われました。

北山副市長から、「平原綾香さん、素晴らしいコンサートをありがとうございました。サンクト・ペテルブルグ市民の皆さんをはじめ多くの方々のおかげによって本当にいろんな記念事業が順調に進んできたと思っている。サンクト・ペテルブルグでの最終日に平原さんの素晴らしい歌声で締めくくることができ、本当に嬉しい。コンサートのパンフレットを見るとマトビエンコ知事の素晴らしいあいさつが載っている。最後の 2 行に『大きな可能性を秘めた相互関係が私たちを結びつけてくれています。大阪とサンクト・ペテルブルグのパートナー関係と友好関係は、今後もさらに発展し強固なものとなると確信しています。』とある。今後、両市の関係がさらに強固になるものと確信し、そのために頑張りたいと思う。」旨のあいさつがあり、感謝状が贈呈されました。

続いて、舟戸議長が、花束と記念品を手渡しました。

【舟戸議長のあいさつ】

今日はこうして平原綾香さんの歌を聞かせていただき、サンクト・ペテルブルグ市と大阪市の交流について、今までにない一つの切り口を見つけたのではないかと思います。綾香さんの言葉の中に、ロシアの方、サンクト・ペテルブルグの方はあたたかいという言葉があった。私も同じことを感じている。大阪にはこんな言葉がある。「一度会えば親友で、1 回行けば常連」と。サンクト・ペテルブルグとロシアはこの言葉にぴったり合うと思う。サンクト・ペテルブルグと大阪の関係、ロシアと日本の関係はこれから新たな展開もあるのではないかと思います。ここにご参加の皆様方のご健勝ご多幸と、平原綾香さんの今後の大きな活躍を心からお祈り申し上げます。



【平原綾香さんのあいさつ】

今日は本当にありがとうございました。夢のような時間で、こうしてロシアの方々が嬉しそうに手をたたいてくださった、あの光景は一生忘れない。私は今回初めてロシアに来たが、予想以上にロシアが大好きになった。最初は、旅行雑誌にとってもなく寒い「脳が凍るぐらい」と書いてあり、脳が凍るってどれぐらい寒いだろうとスタッフと怯えながらロシアに来た。実際ロシアに降り立って空港に着いたときに、バラの花を持った男性を二、三人見て、素敵と思った。そして実際にスタッフからバラをいただいてもっと素敵と思った。ロシアに来ると日本にいるときより体調がよくなって、前世はロシアにいたのかなと思うぐらい居心地がよかった。人もとってもあたたかくて、目を見たらニコッと笑ってくださって、そんな方がたくさんいてどんどん好きになってきた。



今日はこうしてコンサートをして、ロシアの方も、日本からもたくさん来てくれて、本当にありがとうございました。たくさん感謝しなければいけない方々がいるけれども、まとめてありがとうと言いたいと思う。(中略—各々にお礼) ロシアにまた来られるように頑張って歌っていきます。今日は本当にありがとうございました。

この後、舟戸議長の乾杯の発声で宴が始まり、コンサートの余韻に浸りながら参加された方々と楽しく交流しました。

また、このレセプションの最中に不思議なことが起こりました。突然、出席者の1人が持っているワイングラスを床にたたきつけて割ってしまいました。それにもかかわらず、誰ひとりその人をとがめたり、片付けたりする様子がまったくありませんでした。同じことがもう1回あったので、サンクト・ペテルブルグではこれは場を盛り上げるためのものなのかと理解しましたが、大変驚きました。